

平成 29 年度放射線安全取扱部会年次大会

(第 58 回放射線管理研修会) アンケート調査のまとめ

平成 29 年度放射線安全取扱部会年次大会実行委員会

平成 29 年 10 月 12 日 (木), 13 日 (金) の 2 日間にわたり, 平成 29 年度放射線安全取扱部会年次大会が兵庫県立淡路夢舞台国際会議場 (淡路市) にて開催された。年次大会実行委員会では, 参加者の動向を把握し, 今後の部会活動や大会運営の充実を図るため毎年アンケート調査を実施している。今回は, 参加者総数 303 名のうち 150 名から回答を得た (回答率 49.5%)。その結果を以下に報告する。

1 年次大会について

今大会の各イベントと運営 (構成, 開催の時期, 会場等) への満足度についての 5 段階評価 (5: 満足, 4: やや満足, 3: 普通, 2: やや不満足, 1: 不満足) 及び大会への意見やコメントの記載をお願いした。図 1 にそれぞれの評価点 (平均点) を, 図 2 に質問項目ごとの評価の割合と回答率を示す。

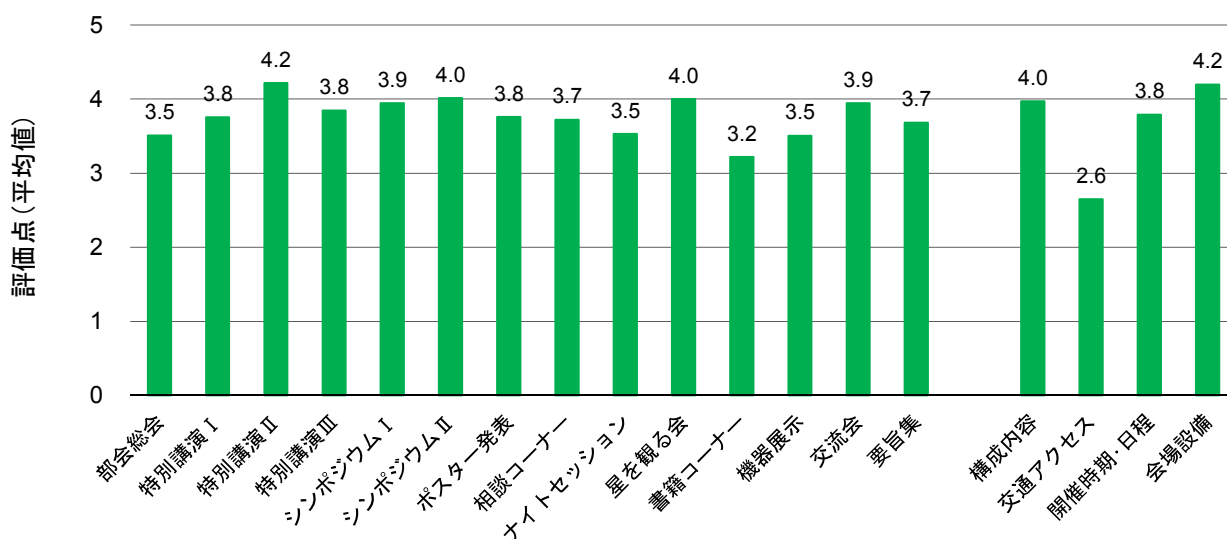


図 1 年次大会各イベント・全般の評価点

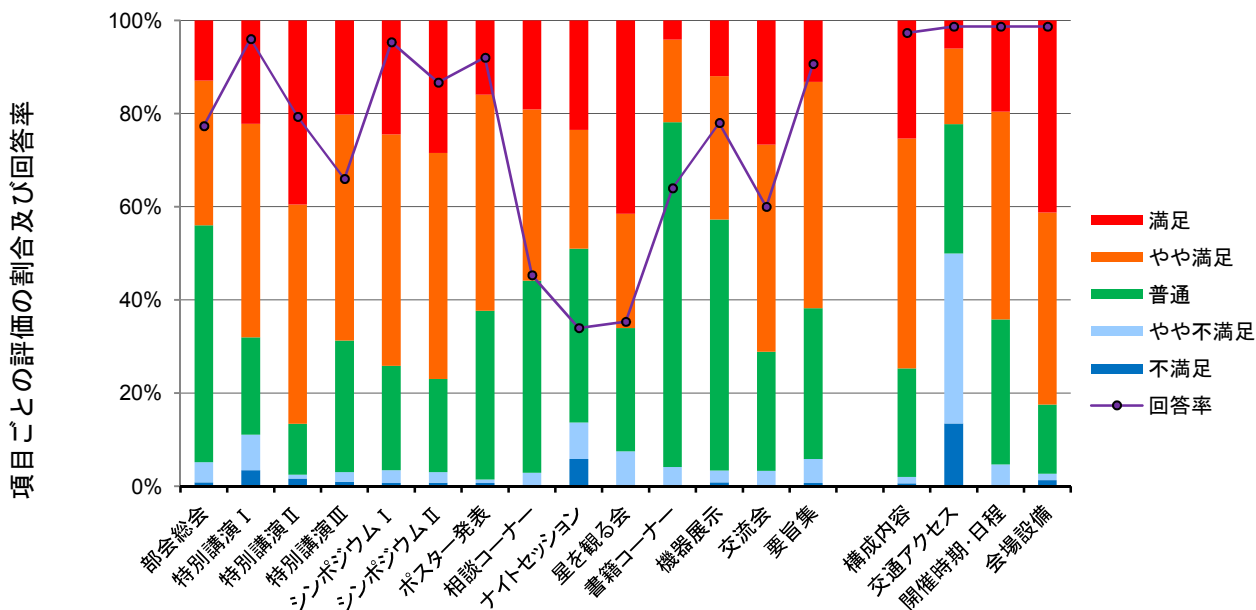


図2 年次大会各イベント・全般の評価の割合（各質問の回答者数に対する割合）及び回答率

1-1 部会総会

評価点は平均 3.5，回答率は 77%で，ほぼ前回と同様であった。

1-2 特別講演Ⅰ 「放射線安全管理行政の動向」

原子力規制庁の上席放射線安全審査官により，放射線安全管理行政の動向や法令改正について講演していただいた。「最も関心のあること」，「最も聞きたいこと」とするコメントがあり，回答率は 96%と高く，多数の方が興味を持ち参加されたことがうかがえた。一方で，期待の高さゆえに，「もう少し時間をとって欲しかった」等の意見も多数みられた。評価点は平均 3.8であった。

1-3 特別講演Ⅱ 「核医学イメージングでわかる情動のメカニズム—“ときめき”の脳科学」

PETの観点からヒトの情動メカニズムについて講演していただいた。恋愛，感情に着目した関心を惹くテーマだったので，評価点は高く，平均 4.2であった。

1-4 特別講演Ⅲ 「フクシマから始める疫学入門」

統計学の基礎から福島県の疫学調査に関する話題まで，原子力発電所事故も含めて，幅広く講演していただいた。評価点は平均 3.8であった。

1-5 シンポジウムⅠ 「法令改正を踏まえた事業所の取り組み」

様々な分野の事業所の方から，法令改正に伴う現在の対応状況や課題を紹介していただき，パネル討論を実施した。特別講演Ⅰと同様に回答率が 95%と高く，「大手から中小企業までの具体的事例が聞けて良かった」，「原子力規制庁審査官が（特別講演Ⅰから引き続き）参加されていて良かった」との評価する意見があった。一方，特別講演Ⅰと同様，「もっと討論の時間をとって欲しい」との要望もあった。評価点は平均 3.9であった。

1-6 シンポジウムⅡ 「主任者のスキルとしての緊急時モニタリング—そのプラットフォーム構築のための教育研究の試み」

主任者のスキルとしての緊急時モニタリングについて，緊急時対応の考え方と緊急モニタリングプラットフォームの位置付け，基準線量，原子力防災体制の接点を紹介していただき，パネル討論を実施した。

評価点は平均 4.0 であった。後述の「興味のあるテーマ」でも「緊急時の対策」が多く選択されており（「2-1 興味のあるテーマ」参照）、関心の高い話題であることがうかがえる。

1-7 ポスター発表

41 件の発表があり、評価点は平均 3.8 であった。「会場が広くて見やすかった」、「独特なポスター発表があり興味深かった」との評価する意見があった。一方で、「発表者（説明者）が分かりにくかった」との意見もあった。

1-8 相談コーナー

13 件の相談があり、評価点は平均 3.7 であった。

1-9 ナイトセッション

今回、初の試みとして、交流会後に分科会の主催で開催した。評価点は平均 3.5 であった。夜間帯の開催ではあったが、34%の回答率を得た。「敷居が高く、若い人も巻き込める仕組みが必要ではないか」、「内容が（あらかじめ）分からなかった」との意見もあった。

1-10 星を観る会

ナイトセッションと同時に開催し、3D プロジェクション上映等を実施した。回答率は 35%であった。評価点は平均 4.0 と高い評価をいただいた。

1-11 書籍コーナー

前回、受付近傍にコーナーを設置したところ、回答率が上がり多くの方に立ち寄りいただけたようだったので、今回も同様に受付近傍に設置した。回答率は、前回とほぼ同様の 64%で、コーナーへの立ち寄りを促進するのに効果的であったと考えられる。評価点は平均 3.2 で、「数が少ないと感じた」、「お勧めの図書があると良いと思う」との意見があった。

1-12 機器展示

13 社の出展があり、評価点は平均 3.5 であった。「会場が広くて見やすかった」との評価する意見があった。

1-13 交流会

アトラクションとして、淡路島を中心に活動されている海外アーティストによるタップダンスが披露された。評価点は平均 3.9 と比較的高い評価を得た。

1-14 要旨集

紙媒体でなく、電子ファイルによる配付を要望する意見があった。また、今回も、講演要旨にスライド資料掲載のないものについて、「準備していただけると有り難かった」とのコメントがあった。評価点は平均 3.7 であった。

1-15 見学会

アンケート項目にはないが、大会終了後に、会場の兵庫県立淡路夢舞台国際会議場周囲の茶室、教会、展望ホール等を散策する見学会を実施した。参加者は 15 名であった。

1-16 運営について

構成内容について、評価点の平均は 4.0 で、「プログラムはポイントを絞っており良い」、「前例のない企画で楽しかった」等の評価する意見をいただいた。テーマについては、特に今回は法令改正のタイミングと重なったこともあり、「規制の動向、対応に関する講演に興味がある」、「法改正に関する事項にもっと時間を割いて欲しい」等の意見が多くみられた。反面、法令等にテーマを特化せず、バラエティーに富んだ選定を望む声もあった。一例として、「（法令等だけでなく）民間のテーマをもっと取り上げて

欲しい」等の記述もあり、意見が分かれている。他には、「参加者には“ペーパードライバー”もいるので、実務的事例紹介をして欲しい」、「若手育成にも力を入れて欲しい」等、ビギナー向けテーマへの要望もあった。

今回の年次大会は、初めて“島”での開催となったので、交通アクセスや宿泊場所の選択肢が少ないことに関する意見が多くみられた。その一方で、会場設備への評価は平均 4.2 で、「満足」が 40%、「やや満足」と合わせると 80%となり、高い評価を得た。「メインホールが良い」との評価するコメントもあった。また、今回、昼食用に弁当を用意したが、それに対する評価もいただいた。

開催時期・日程については、ほとんどコメントはなかったが、「開催曜日を年ごとに変えて欲しい」、「仕事の都合をつけるため休日開催を希望」との意見もあった。運営面では、その他に、「事前申込の期間が短い」との意見があった。

初めて参加された方が 19%（「3-3 参加頻度」参照）おられた。「職場で悩みを共有できる人が、なかなかいない」、「情報収集目的で定期的に参加したい」とのコメントがあり、年次大会に参加される動機として、これらへの期待を持たれていることがうかがえる。

2 放射線安全取扱部会の活動について

2-1 興味のあるテーマ

興味のあるテーマとして選ばれたものを図 3 に示した。最も多かったのは「教育訓練」、次いで「緊急時の対策」を挙げ、それぞれ約半数の選択があった。以下、「放射線利用」、「社会貢献」、「安全管理状況の点検」、「設備・機器の品質管理」、「記帳・記録」が関心の高いテーマとして続いた。

これ以外の自由記載では、法令に関するもの（法改正、施設の廃止、主任者の業務）、「機器の廃棄」、「ドシメトリー」、「クリアランス金属のリサイクルとそれに関する国の動向」等の記載があったほか、「一般の人への知識をいかに多く与えていくのか」、「管理の科学的根拠及び社会的妥当性について」といった幅広いテーマが挙げられている。

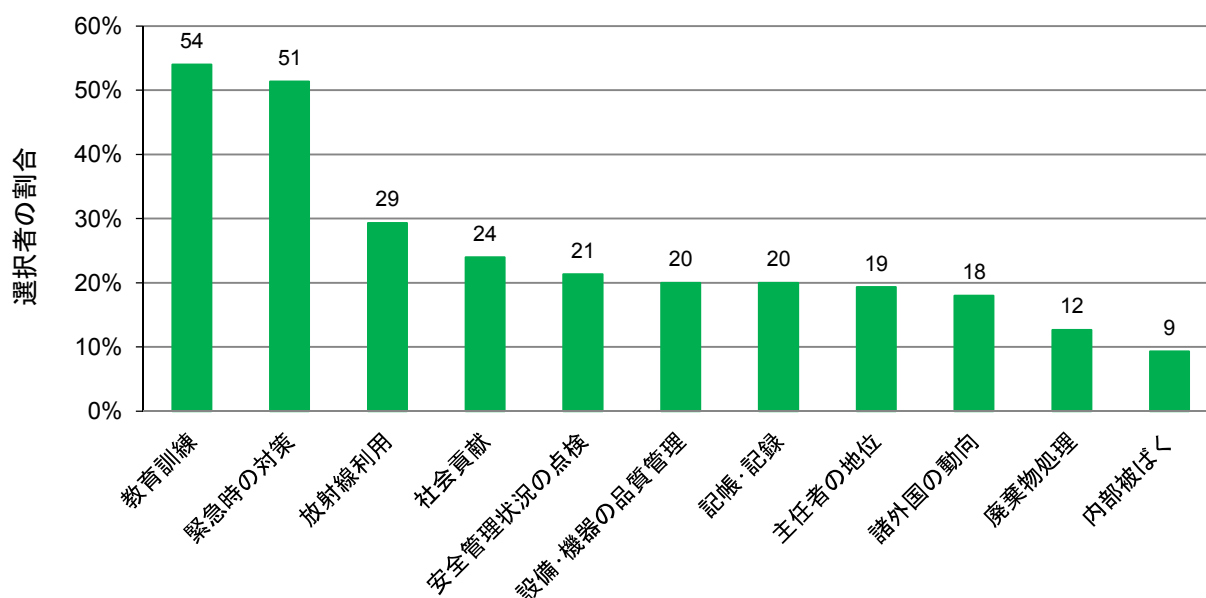


図 3 興味のあるテーマ

2-2 教育訓練

開催頻度については、約9割が適切を選択している。また、講習内容について、不適切との選択はなかったが、自由記載には、「法改正への具体的取組み」等を望む意見や、「講習科目が法令と名称が合っていない」との意見があった。

2-3 部会活動全般について

「真面目に取り組まれている」、「管理者として情報や悩みを共有でき、モチベーションや責任を実感できる場」との記載があった。ほかに、会員数の減少についても言及があり、「若手に魅力ある内容を」等の意見があった。「1-15 運営について」でも類似のコメントを紹介したが、年次大会が伝承の場として期待されていることがうかがえる。

3 参加者について

3-1 年齢、性別

年齢構成は、20歳代5%、30歳代15%、40歳代22%、50歳代39%、60歳代以上19%であり、50歳代以上が約半数を占める（図4）。性別比では、男性86%、女性14%であった。

3-2 所有免状、身分について

複数回答は加算して集計している。所有免状は、第1種放射線取扱主任者が78%で大半を占める。以下、第2種放射線取扱主任者と薬剤師とがそれぞれ5%、その他（作業環境測定士、診療放射線技師、技術士等）が2%であった（図5）。

身分は、事業所長1%、管理職23%、一般職27%、教育研究職27%、医療従事者4%、放射線技師6%であった（図6）。また、日本アイソトープ協会会員は69%、放射線安全取扱部会会員は56%であった。

3-3 参加頻度

参加頻度は、毎年参加が54%、隔年が6%、時々が21%、初めてが19%であった（図7）。

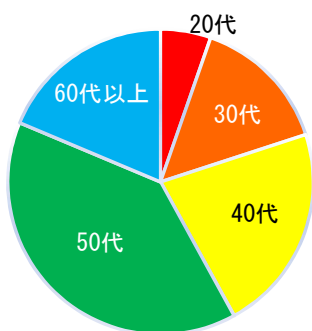


図4 年齢構成

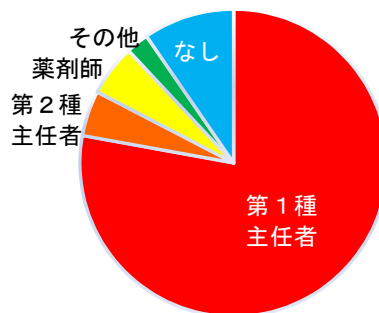


図5 所有免状

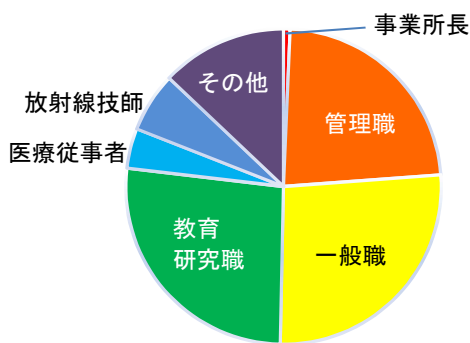


図6 身分

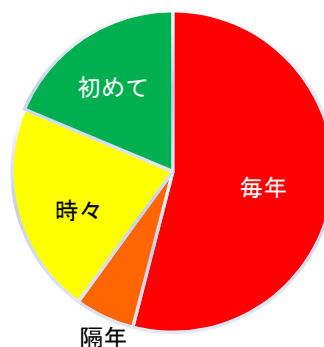


図7 参加頻度

4 参加者の所属事業所について

4-1 事業内容

医療機関が10%，教育機関が43%，研究機関が15%，民間企業が26%であった（図8）。

4-2 使用形態

複数回答は加算している。許可使用が86%で大部分を占め、以下、届出使用が4%，販売業が2%，廃棄業が1%であった（図9）。

4-3 施設

複数回答は加算している。非密封が52%，密封が24%，放射線発生装置が13%，設計認証機器が5%，非破壊検査が1%であった（図10）。

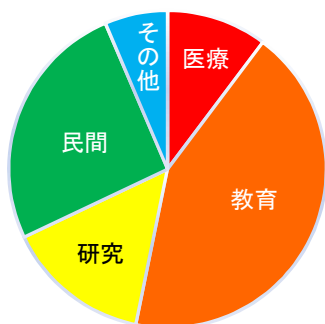


図8 事業内容

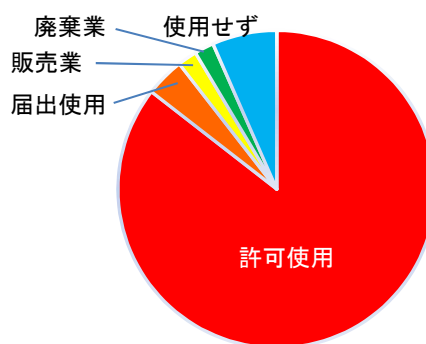


図9 使用形態

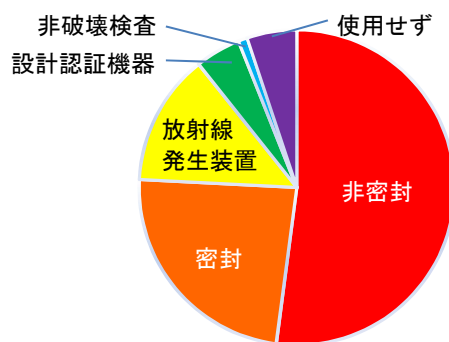


図10 施設の種類

4-4 所在地

北海道 2%, 東北 11%, 関東 32%, 中部 15%, 近畿 25%, 中国・四国 9%, 九州 11%であった (図11)。

4-5 放射線業務従事者数

20人以下が 23%, 20~100人が 49%, 100~300人が 16%, 300人以上が 13%であった (図12)。

4-6 選任主任者数

1人が 37%, 2人が 38%, 3人が 16%, 4人が 5%, 5人以上が 4%であった (図13)。

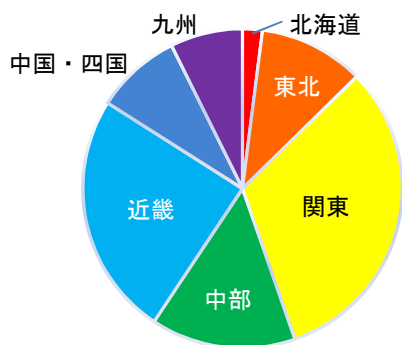


図11 所在地

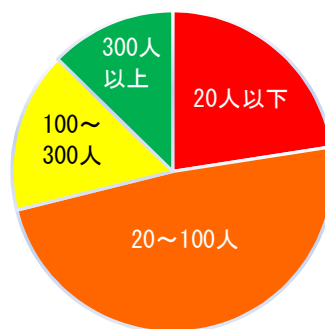


図12 放射線業務従事者数

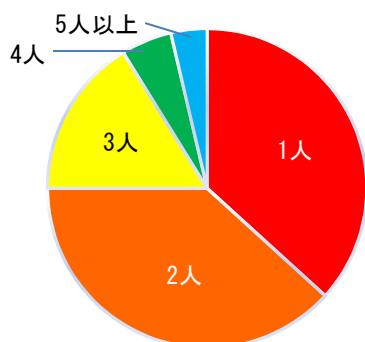


図13 選任主任者数

おわりに

今回の年次大会は、近畿支部が担当し、年次大会初の“島”での開催となりました。テーマを「はじまりの島 主任者よ いざ夢の舞台へ」とし、法令の大幅な改正で、放射線の利用、安全管理や主任者に求められる姿勢が新しい時代に入る「はじまりの年」に行う年次大会として、日本で最初に生まれた島“国生み”の伝承がある「はじまりの島」淡路島を会場としました。

自然に囲まれた場所で開催した大会に、300名を超す方々が参加していただき、会場について一定の評価をいただきましたが、日頃お勤めの場所から離れた地へお越しいただくこととなり、それについてのご意見も頂戴いたしました。大会運営で至らない点につきまして、多数の貴重なご意見を賜り、ここではすべてを紹介できませんでしたが、回答いただきましたコメントは真摯に拝承し、次回以降の大会実行委員会に引き継ぎ、より充実した年次大会の開催運営に役立ててまいります。

末筆になりましたが、大会にご参加いただいた皆様、アンケートにご回答いただきました皆様に、心より御礼申し上げます。

(谷 康輔)